

平成30年度特別支援教育授業づくり研修会アンケート結果

回収率 92.3% 72/78名 (昨年:回収率 77% 74/96名)

1 出席者	講師	広島大学大学院教育学研究科 准教授 竹林地 毅	1名
	来賓	山口県教育庁特別支援教育推進室 主幹 岡崎 浩一 山口大学 副学長 福田 隆眞 山口大学 学部長 丹 信介 山口大学 副学部長 和泉 研二	4
	指導助言	山口大学 教授 松田 信夫 山口大学 教授 松岡 勝彦 山口大学 教授 鷹岡 亮 山口大学 教授 中田 充 山口大学 准教授 須藤 邦彦	5
	県外	広島県立広島北特別支援学校	1
	県内	小学校 43 中学校 7 高等学校 7 特別支援学校 16 市町教育委員会 2	75
	山大	長研	2

※ 塗りつぶし=アンケート提出者

2 特別支援教育の経験

ある	1年	14	ない
45名	2～5年	9	27名
	6～9年	7	
	10～19年	6	
	20年以上	4	

※ 経験年数は記入があったもののみ集計

3 本研究会を知ったきっかけ

○学校に届いた案内	40名
○本校ホームページ	15名
○その他	11名
〔・先輩からの紹介	4名
〔・校外研修一覧	6名
〔・未記入	1名

4 公開授業・授業検討会①について

参考になった

参考にならなかった

学部 参加者数	单元名	5	4	3	2	1
小学部 41名	「カフェごっこをしよう！」	33 80.5%	8 19.5%	0	0	0
	授業検討会	28 68.3%	12 29.3%	1 2.4%	0	0
中学部 16名	「卒業生を送る会の思い出作りのために、中学部みんなで楽しめる活動を企画しよう！」	12 75%	2 12.5%	2 12.5%	0	0
	授業検討会	11 68.8%	3 18.7%	2 12.5%	0	0
高等部 12名	「進め！ゴミの分別名人への道」	12 100%	0	0	0	0
	授業検討会	12 100%	0	0	0	0

《小学部参加者意見》アンケート記述より

- ・「カフェごっこ」という状況設定
- ・「カフェを開く」というテーマで、本当にポテトを作ったり、飲み物を作ったりしている姿が新鮮だった。その中で、言語能力が育っていることを感じた。
- ・実勢にポテトを揚げたり、飲み物を入れたりし、お客さんをもてなす活動を通して学習してきたことを使い、新たな学習もできていたと思う。実感を伴った学びをこれからの実践にいかしていきたい。
- ・実践を繰り返し行うことで、パターンを身につけ、成長を実感させることができるなど、良いことがある反面、飽きによる意欲の低下がおきてしまう。それを防ぐための手立ての工夫が難しいと思った。
- ・カフェは、本学級でも行おうと思っているので参考にし、取り組んでみようと思う。
- ・トラブルが起こった際に、生活単元学習の成果が見えると思った。
- ・視覚的支援（重要さが分かり、通常の学級においても生かしていきたい。充実によって、児童生徒が主体的に活動できる。） 4
- ・「楽しむ→つかえる」授業づくりの大切さを学んだ。
- ・学習したことを、生活場面で「つかえる」ようにする課題や環境の設定
- ・初めは意図的に場を設定し、繰り返し練習していく。それを生かすために、子どもに考えさせる時間を与える。など、今の学級でも試してみたいと思った。
- ・繋がりのある授業づくり
- ・教材・教具の活用の仕方
- ・子どもたちの実態に合わせた教材・教具
- ・教室の環境づくりや教師のかかわり方などがとても参考になった。
- ・ICTの活用法やねらい
- ・教材提示の工夫
- ・主体性を引き出すための発問
- ・丁寧な指示や声かけが多くあった。
- ・特性に合わせて力を育て、自立や社会参加につながる学習内容（計画）
- ・感情を経験し、“見える化”する様々な方法
- ・「ありがとう」という言葉に着目させるのはいいことだと思う。
- ・「ありがとう」の実践が、社会性の基礎づくりになると感じた。
- ・「ありがとう」という言葉で人間関係の形成に取り組んでいるところ
- ・「ありがとう」の言葉のもつ力
- ・お礼の「ありがとうメッセージ」をその場で児童の目の前で書いてもらう取組が印象に残った。児童もすぐ見える形で評価してもらい喜んでいた姿から達成感がうかがえた。
- ・人間関係や感情の共有などすばらしい実践
- ・これまでの学びの蓄積（貯め方）の工夫 2
- ・個に応じためあての設定
- ・めあてに沿った振り返りの仕方（次につながる振り返り） 2
- ・手紙をもらって振り返った所
- ・単元の見直し
- ・子どもの相手意識
- ・授業での子どものやりとり
- ・生活単元学習そのものについて深く学ぶことができた。（小学校の中だけでは学べないことをたくさん学べた。） 2
- ・生活単元学習とは何かということを考えながら参観することができた。
- ・生活単元学習の授業展開の仕方について学べたこと
- ・生活単元学習についてもっと知りたいと思った。
- ・一人ひとりに対する支援の仕方
- ・教師の支援は最低限
- ・校種は小学校だが、通常の学級にも生かせるところがたくさんあった。

《中学部参加者意見》アンケート記述より

- ・ワークシート（生徒にワークシートを選ばせること、ただし、少人数かつ支援を行える体勢だからこそできるのかなとも感じた。） 4
- ・視覚的支援の方法
- ・話し合いのルール
- ・SSTや他の教科との関連
- ・授業を良い点と改善点に分け、さらに具体的に意見を出し合う、その中で様々な意見や考えを聞くことができた。生徒目線であったり、教師の目線であったりと多角的に授業を分析し、授業研究の奥深さを知った。
- ・モノ、人、場のそれぞれを準備していく大切さを感じた。モノの準備を工夫することで、できることを考えていきたいと思う。
- ・ワールドカフェ方式を実際に経験することができ、とても参考になった。授業の中でいつか取り入れてみたいと思う。
- ・ワールドカフェ方式でグループ発表をしていく協議は校内研修に活用できたらよいと思った。

《高等部参加者意見》アンケート記述より

- ・単元の内容
- ・年間テーマ（ごみ）
- ・年間計画
- ・授業の体制づくり
- ・授業の流れ、仕組み方
- ・授業の設定の仕方（検定、ヒントスペース等）はとても参考になった。
- ・教材、教具の工夫（合格シール等、色々な場面で工夫があった。） 3
- ・ICTや検定システムなど、子どもの関心を高める工夫。
- ・ICTの活用
- ・ICTなど環境がとても整っていて、いいなと感じた。
- ・ヒントコーナー 2
- ・達成感をもたせるための様々な仕掛け（達成感の分かる工夫） 2
- ・生徒への足場のつくり方
- ・特支ならではの丁寧な対応。高校の現場では、子どもたち一人ひとりを大切にし、ニーズに応えた対応への理解が遅れていると反省した。
- ・検討会①での他の先生方の意見を聞き、様々な視点を得ることができた。

《全ての学部の授業を参観された方の意見》

- ・どの学部も「つかえる」をめざし、めあてを意識した授業がされていて大変参考になった。

5 授業検討会②について

○授業検討会②が実践の参考になったか？（回答者数70名）

参考になった			参考にならなかった	
5	4	3	2	1
41	21	8	0	0
58.6%	30%	11.4%		

6 講演会・演習について

○講演会・演習の内容は、実践の参考になったか？（回答者数70名）

参考になった			参考にならなかった	
5	4	3	2	1
56	13	1	0	0
80%	18.6%	1.4%		

○アンケート記述より

- ・空き缶やペットボトルを使って実際に単元構成を考えたこと（演習での単元づくりがとても参考になった。久しぶりにわくわくしながら授業づくりをしたような気がする。今日の感覚を忘れずに、これからも子どもたちがわくわくするような授業づくりをしていきたい。単元づくりがとても勉強になった。グループで単元を考えるのはとても有意義で楽しかった。単元づくりのグループワークはとても難しかったがとても楽しかった。）7
- ・自分自身が楽しく生単の授業づくりをやっていきたいなと改めて思った。そして、子どもたちが言いたくなるような、子どもたちの思いを大切にしたい単元をつくりたいと思う。
- ・生単の単元づくりに苦手意識があったが、とても分かりやすく、よかった。
- ・生活単元学習のねらいや具体的な活動について、学部を超えて意見交換をすることができ、今後の参考にしていきたい。
- ・単元づくりの中で色々な視点を知ることができた。
- ・単元づくりの力をつける必要性を改めて感じた。実践で話し合いながらだとアイデアが色々出るということを学んだ。
- ・単元計画の設定の仕方
- ・生活単元学習の自由度の高さと難しさを感じた。
- ・生活単元学習を行ったことがないので、どんなものなのか、どんなことができるのかについて知ることができた。単元を構成するのは難しいなと思った。
- ・「生活単元学習」が、どのようなものかという概要の理解から、内容の発想や計画作成など具体的に学ぶことができ、とても良かったと思う。ここまで絞って学ぶ機会はこれまでなかなかなかったので、参加して良かった。
- ・生活単元学習を、実際の経験により話をされていたので授業づくりのヒントとなる内容がたくさんあった。
- ・生単の授業づくりで大切なポイント
- ・単元名は子どもが言える単元名にする。（単元名は教師と子どもの合言葉） 2
- ・興味を引く授業内容について
- ・子どもの思いから必然性、必要性のある授業づくりをすること
- ・授業づくりに対する考え方
- ・子どもの思いを大切にすることが大事だと感じた。
- ・子どもの成長について・・・。周りにいる人（教師）が“これぐらいでいいだろう”と思ったところで成長がとまる。という言葉が印象的だった。（教える側の気持ちも大切だと思った。） 2
- ・教師が教えたいこと、子どもが学びたいこと→指導案
- ・教師が教えたいことを子どもが学びたいことに変える。
- ・指導案に対する認識
- ・児童に体験してもらい、その経験から、次にどのようにしたらよいか考えさせること
- ・ねらいとする活動に向けて学習を積んで、その学習をすることから、まずやってみて、それからよりよくなるための学習をする、という違った切り口が知れた。
- ・事前に準備をしすぎず、すぐに解決策を示さないことが大切だということ学んだ。
- ・子どもに最後までまかせることという言葉が印象に残った。介入しすぎることなく、子どもの主体性をうまく引き出したいと思う。
- ・課題解決のプロセスがある単元・授業の重要性について「課題解決のプロセスがある単

- 元・授業の展開」は生活単元学習だけでなく他の授業でも生かせる内容だと感じた。2
- ・教師の支援方法
- ・体験を経験とする学習の充実が重要であることを感じた。実践例をもっと聞きたいと思った。
- ・体験を経験にし、子どもが学びたい！生活で実践したい！と思える意欲づけ
- ・「やるべきことが明確で、やった達成感が得られれば、問題行動は起きない」ということ（問題行動の対応について考えていきたい） 2
- ・生単の授業でやった内容を思い出しながら聞かせていただいた。もう一度見直さなければと思った。
- ・よりよい授業を実践するためには良いことだけではなく、改善点を見つけ、よりよい授業のための案を出していくことが大切だということを学んだ。授業を大切にすることが、生徒を学ばせる上でとても大事だと分かった。
- ・学びの文脈、探求サイクル
- ・スモールステップでの強化。強化を遅延させない。
- ・竹林地先生のお話（たくさんの名言） 2
- ・演習も取り入れた講演はあまり経験したことがないので、楽しかった。
- ・少し難しかった。

7 今後の研究及び情報発信（日頃の悩みや知りたい情報）

- ・単元と単元のつながり
- ・子どもが学びたい、やってみたいと思える授業づくり
- ・子どもの学びたいという意欲と教師の役割
- ・特性や課題に合わせた学習内容の発想、選択、計画を考えていくことがとても難しいと感じる。（ひとりよがりではないか、あやまっていないか、など不安が大きい。）
- ・自閉症以外の知的障害に対する指導について
- ・様々な障害種の子どもが同じ場で共に学び合う方法について
- ・学年や実態の違う複数の児童がいる中での授業づくりをどのようにすればよいか（カリキュラムの作成）
- ・小中学校特別支援学級での授業づくりについて
- ・通常の学校での教師同士の連携がとれない。特に支援学級への関心はうすい。
- ・算数、数学の系統的指導
- ・教科指導についていつも悩んでいる。体育館後方の書籍は大変参考になった。
- ・学習指導要領解説とリンクした授業実践の事例を聞いてみたい。
- ・児童が見せる小さな反応を見逃さないための心掛け
- ・子どもが自分の感情をコントロールできずにかたまってしまった時、どうすれば良いか。
- ・問題行動に対応する経験をもっと増やして学びたいと思っている。いろいろな事例を知る機会が増えると良いなと思っている。
- ・自立活動の教材についても知りたい。
- ・キャリア教育、就労支援
- ・通常の学級における支援の工夫（かい離のある発達障害児、支援策、様々な案、生活や学習に辛さを感じている生徒に支援してあげられるような特別支援での実際の手立てについてもっと学びたい。） 6
- ・通常の学級で、指示が通りにくい子どもでも、全体の指示が伝わりやすい方法について知りたい。
- ・一般校でもつかえる特別支援の視点
- ・交流学习について
- ・グレーゾーンの子どもについて
- ・小→中→高のつながり、スムーズな引き継ぎについて
- ・生活単元学習も含め指導するための研究機会が多くあり、とても有り難い。今後も積極的に研修会に参加したい。

8 気づきや感想（運営面等含む）

※○…良かった点

●…要望・課題

- 生活単元学習の単元構成は本当に悩んでいたのが参考になった。
- 若い先生方の研修の場として授業公開、研究協議等大変参考になる内容だった。
- 主体的に学ぶことのできる研修会だった。 2
- 参加度の高い能動的な研修会であったことを嬉しく思っている。いろいろなアイデア盛りだくさんで楽しかった。
- 研修ができるというこの会の趣旨は大変身になることだと思う。参加して良かった。
- 今年度から“研修会”という形にしたということでグループワーク等多く大変だったが、良い学びになった。
- 演習もあり、授業づくりについてしっかり考えることができた。内容の濃い、充実した研修をさせていただいた。
- たくさんの先生方に出会い、よい刺激を受けた。この機会を自らの学びに生かし、日頃の教育活動につなげていきたい。
- 教える→子どもが学びたい授業にしていきたいと思った。いろんな話や協議からたくさん学んだ。
- 大変勉強になった。 5
- 大変有意義な一日を過ごさせていただいた。 3
- 大変貴重な機会であった。 2
- 授業での提案を含め、分かりやすい内容だった。
- 大まかではあるが、貴校の指導について1年の流れが分かり、とても参考になった。
- 授業検討会①で開催校の先生が司会者として入ってくださる配慮がありがたかった。
- 情報保障の面では大変お世話になり、本当にありがとうございました。
- 名札やラッシュンペン、付箋などの配慮が大変すばらしかった。
- 様々な配慮があった。 2
- 教室、体育館にヒーターなど、あたためていただき、有り難かった。快適だった。
- 寒い体育館を暖かくしてくださり、飲み物もあったのがとても有り難かった。（心も体もあたたまった。） 3
- 校内のあたたかさを感じる研修会で、参加して良かった。
- スムーズな運営
- 授業検討会②もグループを決めて移動し、いろいろな先生とのアイデアを共有できれば良いと思った。
- 通常の学校に設置されている支援学級を担当する者にとって、生かせる、役に立つ情報をどんどん発信してほしい。紙媒体で掲示していただいた「指導計画」等も、WEB上に公開されていれば自分の学校にとっても“使える資料”となり、助かる。
- もう少し授業参観や学校内を見学する時間があるとさらに良いかと思う。
- 授業検討会①で、ワールドカフェ方式で3セットは欲張りすぎて内容が絞られていない。表面的な内容にとどまる感じがある。
- 参観していない学部の指導助言を聞いてもよく分からなかった。
- 各行程の開始時間を全体で教えていただけると助かった。
- 会場が大変寒かった。
- 椅子同士の間隔が狭く、座りにくかった。
- 時間が延びすぎないようにしていただきたい。